

デーヴォ ガイド



2025.9.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

3:21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

3:26 すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今の時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

3:27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

3:28 人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

3:30 神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない

者も信仰によって義と認めてくださるので

す。
3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

律法は神の義の表れです。罪にとって、義はさばきでもあります。ですから罪人はさばかれなければなりません。しかしさばきは神の愛を具現するものではありません。だからといって罪をさばかなければ、神の義は実現しません。

ここでパウロは、「律法とは関わりなく」神の義が示されたのだと言います。「イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。」です。「神の恵みによって」義とされるという、神の義です。律法を完全に守ることで「義」と認められるのではなく、「キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められる」ということなのです。

私たちはこのような恵みによって救われた者たちです。ですから誇りはもうありません。「信仰の原理によって」です。信じるだけで救われるなどというのはあまりに簡単すぎるという人もあります。しかし人間の罪と認め、神の聖なることを認めるなら、その絶望の中で“ただ恵みによる救い”を受けるしかないのでした。

私たちは自分の罪と神の聖なることを知っている、自分の救いはただ恵みしかないと知っています。ですから誇りではなく謙遜を持つことができるのです。そのような信仰を、生き方に、人間関係に表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 9日 火曜

ローマ



4:1 それでは、肉による私たちの父祖アブラハムは何を見出した、と言えるのでしょうか。

4:2 もしアブラハムが行いによって義と認められたのであれば、彼は誇ることができます。しかし、神の御前ではそうではありません。

4:3 聖書は何と書いていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。

4:4 働く者にとっては、報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされます。

4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

4:6 同じようにダビデも、行いと関わりなく、神が義とお認めになる人の幸いを、このように書いています。

4:7 「幸いなことよ、不法を赦され、罪をおおわれた人たち。

4:8 幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。」

ユダヤ人にとっても、また旧約聖書でもアブラハムは信仰の父であり、信仰の模範です。彼が義とみなされたのも、やはり信仰によるものでした。「神を信じた。それで、それが彼の義と見なされた。」とあるからです。

人間の頑張りや我慢、功績や努力では、絶対聖なる神様に認めていただくことはできません。また犯した罪を帳消しにすることはできないのです。

ですから私たちも、自分はよくやっている、正しい、立派だと自負するよりも、主によって「不法を赦され、罪をおおわれた」と感謝することから始めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 10日 水曜

ローマ



4:9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義と認められた」と言っていますが、

4:10 どのようにして、その信仰が義と認められたのでしょうか。割礼を受けてからですか。割礼を受けていないときですか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときです。

4:11 彼は、割礼を受けていないときに信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というししを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められるためであり、

4:12 また、単に割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが割礼を受けていなかったときの信仰の足跡にしたがって歩む者たちにとって、割礼の父となるためでした。

4:13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいは彼の子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰による義によってであったからです。

4:14 もし律法による者たちが相続人であるなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。

4:15 実際、律法は御怒りを招くものです。律法のないところには違反もありません。

4:16 そのようなわけで、すべては信仰によるのです。それは、事が恵みによるようになるためです。こうして、約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持つ人々だけでなく、アブ

ラハムの信仰に倣う人々にも保証されるのです。アブラハムは、私たちすべての者の父です。

4:17 「わたしはあなたを多くの国民の父とした」と書いてあるとおりです。彼は、死者を生かし、無いものを有るものとして召される神を信じ、その御前で父となりました。

イスラエルの信仰の父であるアブラハムを例にあげています。すなわち、彼が割礼を受ける以前に信仰によって義と認められたことを、明かにして、行いではなく信仰こそが義と認められる要件であることを示しています。ですから、救いの条件は行いではなく信仰なのです。

クリスチャンになった後も、信じて救われたけれど、なんだか確信がなくなってきたのではないかと思う場合もあります。そのようなときも、感情や行いによって救われるのではなく、信仰によるのですから、救いの確信を持ってよいのです。いや、持つべきなのです。

信仰というものがどれほどすばらしいものか、それを再認識しつつ、信仰を与えてくださった聖霊様に感謝しましょう。また信じるだけで救われるまでにしてくださった、十字架のイエス様に感謝しましょう。

救いの確信を証して、他の人を励ましましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 木曜

ローマ



4:18 彼は望み得ない時に望みを抱いて信じ、「あなたの子孫は、このようになる」と言われていたとおり、多くの国民の父となりました。

4:19 彼は、およそ百歳になり、自分のからだですでに死んだも同然であること、またサラの胎が死んでいることを認めても、その信仰は弱まりませんでした。

4:20 不信仰になって神の約束を疑うようなことはなく、かえって信仰が強められて、神に栄光を帰し、

4:21 神には約束したことを実行する力がある、と確信していました。

4:22 だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。

4:23 しかし、「彼には、それが義と認められた」と書かれたのは、ただ彼のためだけでなく、

4:24 私たちのためでもあります。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。

4:25 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。

信仰とは見えない主を信じることです。というよりも、人間の目では見るのが不可能な、力と栄光に富んだ主を信じることです。

ならばその主への信仰から、アブラハムのようにイサクが与えられることも信じるができるのです。私たちも見えないことも、主の約束とあらば信じることができ、また主の喜ばれることを実行することができます。これがクリスチャンの価値観であ

り、良い行いをすることのできる原動力です。
アブラハムのように信仰を持ち、主の約束を手に入れましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 金曜

ローマ

5:1 こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

5:2 このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。

5:3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

5:6 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

5:7 正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。

5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。

5:10 敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによっ



て救われるのは、なおいっそう確かなことです。

5:11 それだけではなく、私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を喜んでいます。キリストによって、今や、私たちは和解させていただいたのです。

アブラハムような信仰は患難のときに力を発揮します。すなわち”望みえないときに望みをいだけて信じる”信仰です。まさに「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。」とあるとおりです。本当の希望は、見通しがあるという目先のことではなく、信仰なのです。

それは信仰による救いをいただいた私たちクリスチャンに共通しているのです。神の子とされた者はみな、この希望を持っているのです。

罪人であったときでさえ、愛をいただいているのですから、今も主に愛されていないはずがありません。主の解決を信じましょう。主にお任せして安心し、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に——

5:13 実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。

5:14 けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。

5:15 しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。

5:16 また賜物は、一人の人が罪を犯した結果とは違っています。さばきの場合は、一つの違反から不義に定められましたが、恵みの場合は、多くの違反が義と認められるからです。

5:17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するようになるのです。

5:18 こういうわけで、ちょうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。

5:19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされる

のです。

5:20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わるところに、恵みも満ちあふれました。

5:21 それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私たちの主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです。

律法の力は、それによって人が救われるのではなく、むしろ人を罪に定めて死に至らせるものです。当然、悪いのは人の罪ですが、律法は救いのためには無力です。

そこで神様は、律法による救いではなく、恵みによる救いを用意してくださいました。そして、「恵みのばあいは、多くの違反が義と認められる」のです。神の恵みは驚くばかりの大きさです。

私たちは救われていることが、自分の功績ではないことを、しっかりと認める必要があります。もっと感謝すべきですし、もっと主の恵みに頼るべきです。恵みをただでもらったのですから、もっともっと謙遜になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。

6:2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。

6:3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。

6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいのちに歩むためです。

6:5 私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。

6:6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。

6:7 死んだ者は、罪から解放されているのです。

罪ある者が恵みを与えられるのだとしたら、罪は恵の元になるということだから、「私たちは罪の中にとどまるべき」だなどと言う人がいたのでしょうか。クリスチャンの中にも、罪を犯しつつ、神の愛を感じているとうそぶく人がいないとも限りません。そのような、とんでもない発言をパウロは警戒しています。そして「決してそんなことはありません。」と言っています。

おそらくそのような迷いごとを言う人は、自分が神様から離れて、勝手にやりたいことの言い訳を探しているのでしょう。私たちは「新しいのちに歩む」べきです。神様の恵みを感じたなら、その神様の愛に答えたい、神様を悲しませないで喜ばせたいと思うのが正常なクリスチャンです。

”罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者”ですから、そのように歩むことが、いきいきと成長する道であり、喜びなのです。神様を喜ばせて、自分もうれしい…。そういう歩みをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

